

版官
蘭和
司
法
職
制
濶
完

T1A1
福岡第一師範學校
(學校圖書) 4237

分類第	號
社會科	門
法律部	
裁判所	司法官
139日	
全	1冊(西) 1冊
分類第	320
書	號

139日
1冊(西) | 1冊
320

T1A1
23
(KA51)

壬申春三月

明治五年

和蘭 司漉職制考 全

文部省

和蘭司法職制法

權大内史神田孝平 譯

第一編 汎則

第一條 司法ノ權ハ左ノ四等衙門ニテ之ヲ執
行フヘシ但シ政典若クハ他ノ律法ニ揭示シ
テ設クタル諸官署ノ權限ヲ犯スヘカラス
其一 郷衙
其二 郡衙

其三 州衙

其四 大審院

第二條 私有物件ノ事私有物件ヨリ生スル權利ノ事財産借貸ノ事其餘一切民權ノ事ヨリ起リタル争訟ヲ裁判シ且ツ律法ニ遵ヒ刑罰ヲ行フ等ハ司法衙門ノ職掌タルヘシ其柄權ノ界限并ニ大小輕重ハ此職制ノ定ニ從フヘシ
第三十條

第三條 目代局ノ職務ハ大審院及ヒ州衙ニ於

テハ目代長之ヲ行ヒ郡衙郷衙ニ於テハ此制
法ニ定メタル官負之ヲ行フヘシ
第四十五條

第四條 目代局ノ職掌ハ專ラ律法ヲ守護シ犯人ヲ追捕シ刑戮ヲ施行スルニ在リ

律法ニ掲クル所ノ件ハ目代局ノ預カリ聞
カサル所ナカルヘシ

第五條 目代局ノ官負ハ其職掌ノ事ニ付官ヨ

リ命令アラハ之ヲ施行スルヲ勤ムヘシ第五
十一條第七
七十二條

第六條 大審院及ヒ州衙ニテハ目代長郡衙ニ
テハ目代事務ヲ掌ル官眞不在若クハ疾病事
故アル時ハ席順ニテ上等ノ訟師長若クハ代
訟師長代勤スヘシ是亦不在若クハ疾病事故
アルキハ大審院州衙及ヒ郡衙長官ノ命ヲ受
ケ法官又ハ法士ノ内一人代勤スヘシ第四十
五條

第七條 大審院州衙及ヒ郡衙ノ長官不在又ハ
疾病事故アルキハ副長代勤スヘシ副長欠眞
ナレハ法官又ハ法士ノ内最モ久任ノ者一人
代勤スヘシ第三十二
第四十七條
第八條 司法職ノ官眞ハ代法士ヲ除クノ外訟
師狀師公訟人ソリシテウル又ハ定マリタル
官俸ヲ受クル職務ヲ兼勤スルヲ得ス
但シ町會邑會ノ議負水利會ノ議負并ニ其書

記官其外堤防役トホルテウルレ役大小學校ノ庶務役學校事務監督官等總ヘテ定マリタル官俸ナキ職務ハ兼勤スルト妨ケナシ
右ニ示ス職務ト司法職ノ職掌トヲ兼勤スルト否トニ付疑惑ノトアルハ官裁ヲ受クヘシ

第九條 大審院ノ官員ハ國會ノ議員ヲ兼帶スルト得ス政典第九十一條

州衙ノ官員ハ州會ノ議員ヲ兼帶スルト得ス

第十條 大審院及ヒ同州衙同郡衙ニ於テ法官法士目代局官員書記官ノ間ニ三等以内ノ親族縁族列勤スルト得ス
勤役中縁族トナリタル者モ官許ヲ受ケサレハ其儘在職スルト得ス
但シ代書記官ハ右規則ノ限ニアラス第二十條

第十一條 司法職ノ官負若シ施體加辱ノ刑ニ
 處セラルル、時ハ同時ニ其職ヲ免セラルヘシ
 政典第百
 六十三條

第十二條 法官法士書記官懲治場ニ送ラルヘ
 キ罪ヲ受クルキハ目代長ヨリ申立テ大審院
 ニテ一應取調ヘノ上同院ヨリ免職ノ申渡ヲ
 為サシムルヲ得ヘシ
 放蕩怠慢ニ依テ罪ヲ受クル者亦前同例タル

ヘシ

目代局ノ官負右同様ノ罪ヲ受クル時ハ大審
 院ニテ吟味ノ上免職ハ官ヨリ申渡サルヘシ
 第五十一條 第六十二條 第七十二
 條 第八十八條 政典第百六十三條

第十三條 司法職ノ官負召捕ラル、時ハ先ツ
 其職務ヲ停止スヘシ

第十四條 大審院州衙郡衙ノ長官ハ已レノ見
 込カ又ハ目代局ノ申立ニ依リテ其衙門ノ法

官法士ノ職務ニ怠慢セル者ヲ訓誡スルノ權
アルヘシ第七十二條
第百八條

第十五條 大審院州衙郡衙ノ法官法士目代局
官負書記官及ヒ代書記官ハ其所屬ノ衙門ノ
在ル所ノ邑内ニ住居スヘシ第三十四條第四
十六條第六十一
條以下

第十六條 司法職ノ官負ハ休暇時間ノ外官許
ヲ受ケスレテ在勤ノ地ヲ離ル、一ヲ得ス

休暇時間タリトモ官許ヲ受ケスレテ國境ヲ
出ツルヲ得ス

第十七條 大審院及ヒ州衙郡衙ノ年々休暇時
間ハ七月一日ヲ以テ始トシ八月三十日ヲ以
テ終トスヘシ

第十八條 大審院及ヒ州衙郡衙ニ於テ休暇時
間ニ民間至急ノ事務ヲ取扱フヘキ為ニ掛リ
官負一組ヲ設クヘシ

刑罰取扱ノ事ニ付テハ休暇アルヘカラス

第十九條 大審院州衙郡衙ノ官眞并ニ訟師狀

師小吏ニ至ルマテ誓約ノ式并ニ諸禮儀及ヒ

外出交代ノ規則ハ官ヨリ之ヲ定ムヘシ

第二十條 刑法ニ關カル吟味ハ衆人縱觀ノ所

ニテ之ヲ行フヘシ否ラサレハ其吟味ハ取消

タルヘシ然レモ律法ニテ別格ノ定メアル歟

或ハ大審院州衙郡衙邑衙ニ於テ協議ノ上止

ムヲ得サル事情ヲ述ヘタル檢書ヲ造リ公告

シタル上ニテ訟庭ノ戸ヲ閉ツルハ格別タル

ヘシ政典第百五十六條

聽訟ノ事ニ付テモ右同例タルヘシ政典第百五十六條

聽訟斷獄トモ裁判若クハ禁足ノ申渡ハ衆人

縱觀ノ所ニテ之ヲ行フヘシ尤モ國法ヲ照ラ

シ法ノ如クナラサル者ハ悉ク取消シタルヘ

第二十一條 裁判若クハ禁足申渡ノ節列坐ノ
法官若クハ法士ノ員數此職制ノ定メニ異ナ
ルハ其申渡ハ取消タルヘシ第五十條第五
十七條第七十

下
條以

第二十二條 大審院州衙郡衙ノ法官法士及ヒ
目代局官員ニ官ヨリ下問ノ事アルハ回報
又ハ答議ヲ差出スヘシ第二十
五條

第二十三條 大審院州衙郡衙ノ法官法士ハ其

親族縁族三等以内ノ者訟師又ハ狀師トナリ
タル詞訟ニ付吟味掛及ヒ報知掛ノ役ヲ勤ム
ルヲ得ス第十
條 ○報知掛ノ役ハ詞訟法ニ
参考ノ下

第二十四條 大審院州衙郡衙ノ法官法士ハ已
レニ關係セル詞訟又ハ其成行ノ已レニ關涉
スルヲラント察スル詞訟アルハ自身又
ハ手寄ヲ以テ詞訟人又ハ其訟師狀師ニ相交
ハリ或ハ説話シ或ハ書類贈答スルヲ得ス

第二十五條 司法職ノ衙門并ニ官員其職務ノ事ニ付互ニ書面ヲ以テ求ルヲアラハ規則ヲ照ラシテ其用ヲ便スヘシ第七百七條

第二十六條 評議ノ節ハ總テ長官ヨリ各人ノ名ヲ呼テ問ヲ發スヘシ其順序ハ吟味掛及ヒ報知掛ヨリ始ノ其餘ハ新任ノ者ヨリ次第ニ舊任ノ者ニ及フヘシ長官ハ最後ニ至テ其所見ヲ述フヘシ

欠席セル者或ハ同職ニ托シ或ハ書面ヲ以テ説ヲ述フルヲ得ス

第二十七條 議事兩説ニ分カル、并ハ衆説ニ從テ判スヘシ

第二十八條 司法職ノ官員ハ詞訟ノ事ニ付議事席ニ於テ法官法士ノ述ヌル所ノ密議ヲ他ニ漏スヲ得ス

第二十九條 司法職ノ諸官員此制法ニ掲クル

所ノ者ハ受任ノ節左ノ件々ヲ誓約スヘシ
一 國王ニ忠勤シ且ツ政典ヲ遵奉守護スヘ
キ事

一 何名目何緣故ヲ論セス自身又ハ手寄ヲ
以テ人ニ贈物ヲ為シ若クハ為サントノ
約束ニテ當職ヲ内願セサリシ事
一 何名目何緣故ヲ論セス己レカ掛リノ詞
訟ニ關係アル人若クハ關係アリト察ス

ル人ヨリ贈物ヲ受ケマシキ事

一 右ノ外寛厚精密偏頗ナキヲ旨トシ人ノ
體面ヲ憚ラス忠直公正ナル法官ニ相當
セル行ヲ為スヘキ事 政典第八十三條第
八十六條第百二十
條五

第二編 郷衙ノ事

第三十條 郡衙ノ管轄内ヲ區分シ郷衙ノ管轄

ヲ設クヘシ右管轄ノ區界ハ律法ヲ以テ之ヲ
定ムヘシ第一百十條

第三十一條 各郷衙ニ於テハ法士一員代法士
幾員書記一員ヲ設クヘシ但シ代法士ノ員數
ハ國王ノ定ニ依ルト雖四員ヲ多キノ限トス
第八條

第三十二條 法士疾病事故アルキハ代法士ノ
内最モ久任ノ者之ニ代ルヘシ是亦故障ノ節

ハ其順次ヲ以テ代勤スヘシ第三十七條

第三十三條 書記官疾病事故アルキハ法士其
代人ヲ撰任スヘシ右代人ハ法士ノ前ニテ誓
約ヲ為シ法士其檢書ヲ作ルヘシ第二十九條

第三十四條 郷衙ハ管内ノ首邑ニ在ルヘシ法
士代法士ハ管轄ノ地内ニ住スヘシ書記官ハ
郷衙ノ在ル所ニ住スヘシ第十條
第五條

第三十五條 法士代法士ハ國法ニ書載セラル

件々少シモ欠クルコトナクシテ滿二十五歳以上タルヘシ

法士代法士ハ國人ノ内才徳兼備シ最モ人望アル者ヲ撰ムヘシト雖就中法學ノ試業ヲ受ケ登第セル者ニ任スヘシ第四十八條以下第六條政典第六條

第三十六條 郷衙ノ法士并ニ書記官ノ給料ハ後ニ掲ケル表ニ準スヘシ其等級ハ別段ノ律

法ヲ以テ定ムヘシ

第三十七條 法士代法士書記官モ五年ヲ期

トシ國王ヨリ任ヲ受クヘシ且ツ五年ノ期ニ届ル毎ニ改メテ再任ノ命ヲ受クヘシ政典第六十條

第三十八條 郷衙ノ法士ハ律法ニア定マリタ

ハ職掌ノ外民間庶務并ニ商業ノ事ヲ裁判スヘシ但シ右裁判五十元以下ノ事ナレハ裁判

五元凡金
十兩三分
ニタル

ヲ受ケタル者不服ト雖上告スルコトヲ得ス五
十元以上二百元ニ至ル迄ハ上告ヲ得ヘシ
一 總テ純ラ人事ニ係ル詞訟ヲ裁判スヘシ
二 利分借貸地代ノ滯ノ事并ニ借財ノ返辨
及ヒ利息ノ事ヨリ生シタル詞訟ハ其元
金二百元ニ過クルト雖裁判スヘシ但シ
其名目ニ付爭論アル者ハ此例ニ非ス
第三十九條 左ノ件々亦五十元以下ナレハ裁

判ヲ受クル者不服ト雖上告スルヲ得ス但シ
他事ニ波及スル者ハ此限ニ非ス
一 人獸ヲ論セス土地樹木園庭田畑ヲ損害
スルニ付其償ヲ責ムルノ詞訟
二 律法ニ從ヒ借受ケタル堂構家室倉庫小
屋ノ損害ニ付前同様ノ詞訟
三 工人ノ工費奴婢ノ給料拂方ノ事并ニ工
人若クハ奴婢其主人ト契約ノ事ヨリ生

セシ詞訟

第四十條 惡口嘲弄ノ一ニ係ル詞訟ニテ其償
金五十元ニ過キサル者ハ裁判ヲ受クル者不
服ト雖上告スルヲ得ス但シ五十元以上ニ
及ノ歟或ハ金ノ代リニ他事ヲ望ム歟又ハ金
ニ他事ノ属スル者ハ裁判ノ上、上告スルヲ
得ヘシ

第四十一條 借屋借藏借厩借樓借窖ハ借貸何

程ニ拘ラス借人ノ方ニ永代借新規借年延借
ノ証書ヲ持タスレテ返サ、ル時其明渡ヲ訴
フルニ付テノ詞訟ハ之ヲ裁判スヘシト雖モ
裁判ヲ受クル者上告スルヲ得ヘシ
借屋敷借地面借園庭ノ類モ一年ノ借貸二百
元ニ過キサル者亦前同例タルヘシ
右兩節ノ場合ニ於テ裁判ヲ受ケシ者不服ニ
テ上告ニ及フト雖郷倚法士ノ權ヲ以テ質物

ヲ差出スヘキ由ヲ命スルヲ妨ケナシ

第四十二條 借屋借藏借厩借樓借窖并ニ借屋
敷借地面借園庭ノ契約ヲ解散シ引渡ノ時滞
金高年分五十元ニ過キサル時ハ裁判ノ上上
告ヲ得ス五十一元以上二百元ニ至ル者ハ裁
判ノ上上告スルヲ得ヘシ

前條ノ末節ニ示セル定ハ此條ニモ相當スヘ
シ

第四十三條 凡ソ和談或ハ説諭ノ整フヘキ詞

訟ニテ郡衙ニ訴出ヘキ處原告被告雙方ノ望
ミニ因リ管轄内ノ郷衙ニ訴ヘ出テ其裁判ヲ
乞フキハ何事件何金高ヲ論ヤス右郷衙ニテ
之ヲ裁判スル事ヲ得ヘシ

右ノ場合ニ於テ其訴フルトコロ上等衙門ニ
出ツヘキ事件ナレハ必ラス其由ヲ以テ説諭
シ尚又雙方懇願ノ上ニ非ナレハ裁判スヘカ

ラス

第四十四條 郷衙ノ法士ハ何罪人ニ拘ハラス
七日以下ノ入牢七十五元以下ノ過料或ハ入
牢過料重複ノ刑ヲ申渡スコトヲ得ヘシ尤モ物
品取上ノ有無ニ拘ハラサルヘシ
過料二十元以上ノ刑罰ヲ受クル者ハ都テ上
告スルコトヲ得ヘシ
租税ノ事ニ付テノ罪人ハ右ノ規則ニ拘ハラ

ス專ラ郡衙ニ於テ裁斷スヘシ然レモ律法ニ
テ別ニ上等ノ法官ニ命スル者ハ此例ニ非ス
雜費金償金ヲ責ムルノ詞訟ハ其高五十元ニ
過キサル者郷衙ニテ決スヘシ其五十元ニ過
クル者ハ別ニ設ケタル強償ノ例ニ從ヒ聽訟
掛ノ法官之ヲ決スヘシ

第四十五條 前條ニ記スル事件ニ付テ目代局
ノ職務ハ其郷衙ノ在ル所ノ邑長ノ任タルヘ

シ
邑中ニ巡警長アラハ邑長ヨリ目代ノ任ヲ之
ニ委ヌルヲ妨ケナシ巡警長ナキ邑ニテハ邑
治官貞又ハ其外ヨリ一貞ヲ選ニ州衙ノ目代
長ハ届ケ其許諾ノ上ニ之ヲ委ヌヘシ第三
条

第三編 郡衙ノ事

第四十六條 各州内一所又ハ數所ノ郡衙ヲ設

クルヲ後ニ示ス表ノ如クナルヘシ
右郡衙ノ數及ヒ其法士目代書記代書記ノ貞
數并ニ其給料ノ高モ亦後ニ示ス表ノ如クナ
ルヘシ尤モ其管轄ノ區界人貞并ニ給料ノ等
級ハ各所各別ノ律法ヲ以テ之ヲ定ム第十五
条 第一百
十二

第四十七條 掛リノ法士疾病事故アリテ他ノ
法士亦差支アルハ代法士代勤スヘシ代法

士ノ員數ハ諸郡衙一定セスト雖五員ヲ以テ多キノ限トナスヘシ第六條第八條第十六條

第四十八條 郡衙ノ法士目代書記官代法士ハ政典ニ示セル要件ヲ完備シ國中大學校ニ於テ法學ノ試業ヲ受ケ登第シ且滿二十五歲以上ノ者タルヘシ

代目代書記官モ亦法學ノ試業ヲ受ケ登第セル者タルヘシト雖モ年齡ハ二十三歲ニテ

足リトスヘシ第三十五條政典第六條

第四十九條 郡衙ノ法士及ヒ目代官ハ可成丈其代員若クハ書記官其外郷衙ノ法士代法士ノ中ヨリ五年ノ間精勤シ且ツ令望アル者ヲ選舉スヘシ第五十二條

第五十條 郡衙ニテ聽訟ノ節ニハ奇數ノ法士ニテ之ヲ判スヘシ但シ三人ヲ以テ少キノ限トスヘシ第二十一條

第五十一條 長官副長官法士代法士ハ生涯ヲ期シ國王ヨリ命セラルヘシ

目代局ノ官眞書記官代書記官亦國王ヨリ命

セラルヘシト雖モ生涯ヲ期セス第三條以下
政典第百六

十三
條

第五十二條 法士代法士書記官及ヒ郷衙ノ法

士欠眞アルモハ郷衙法士并ニ諸有司相議シ

第四十九條ヲ照ラシテ三名ヲ擬定シ州衙ノ

長官及ヒ目代長へ差出シ夫ヨリ國王へ捧ケ
國王ノ採擇ニ備フヘシ

第五十三條 郡衙ニ於テハ總シテ人事物事或

ハ兩事混合ノ詞訟等何事ニヨラス初度ノ裁

判ヲ為スヘシ然レモ律法ニテ郷衙若クハ州

衙大審院ノ事務ト定マレル事件ハ此限ニ非

第三十八條以下第六十五
條以下第八十一條以下

第五十四條 郡衙ニ於テハ左ノ件々ニ付取終

ノ裁判ヲ為スヘシ

一 管下ノ諸郷衙ノ間ニ裁判ノ事ヨリ生シタル争論

二 人事ノ詞訟總高四百元ニ過キサル者

三 物事ノ詞訟元金利息ニ拘ハラズ元高百

分ノ五ニシテ其高四百元ニ過キサル者

四 界標ヲ置替ヘ地面樹木森林用水ノ争ヒ

水道水吐ノ妨ケニ付其年内ノ詞訟并ニ

所有ノ權ニ付生シタル詞訟

五 郷衙ノ裁判ニ服セスシテ上告スル者

第五十五條 人事物事或ハ兩事混合ノ詞訟ノ

上等衙門ノ裁判ニ屬スヘキ者ト雖モ原告被

告トモ上等衙門ニ出ツルヲ願ハサレハ郡衙

ニテ最終ノ裁判ヲ為スヘシ

第五十六條 懲治セシムヘキ罪案ハ郡衙ニテ

裁判スヘシ但シ其過料二百元ニ過キサル者

及ヒ入牢籍没ノ事ナキ者ヲ除クノ外ハ都テ
上告スルコトヲ得ヘシ

雜費金償金ヲ責ムルノ詞訟其高百五十元以
下郡衙ニテ裁判スヘシ百五十元ニ過クル者
ハ別ニ設ケタル強償ノ規則ニ從ヒ之ヲ裁判
スヘシ第六十
八條

第五十七條 懲治セシムヘキ罪案ヲ裁判スル
法士ハ奇數タルヘシ但シ三人ヨリ少ナカル

ヘカラス第二十一條
第五十條

第五十八條 郡衙ニ於テハ郷衙ノ裁判ニ服セ
サル者ノ上告ヲ裁判スヘシ

前條ノ定メハ上告ノ裁判ニモ通用スヘシ第四
十四條

第五十九條 刑罰擬定ニ付郡衙ノ權并ニ刑法
監察使ノ權及ヒ右監察使ノ負數年限其外此
事ニ關係レタル諸規則ハ治罪法ニ之ヲ掲ク

へん

第四編 州衙ノ事

第六十條 每州ニ州衙一所ヲ設クヘシ第二百十

第六十一條 州衙ノ制左ノ如シ

荷蘭州ニ於テハ法官長一員副長一員法官九員目代長一員訟師長二員書記一員代書記一員

北巴班、給德蘭、西蘭、烏特歷、非里薩、窩威、立塞、哥羅凝、俺、德倫ニ於テハ法官長一員副長一員法官七員目代長一員訟師長一員書記一員代書記一員或ハ二員

右諸官員ノ給料ハ後ニ附スル表ニ之ヲ示スヘシ

第六十二條 州衙ノ法官ニニステル并ニ目代長訟師長ハ政典第六十三條ヲ照ラシ生涯ヲ

期レ國王ヨリ之ヲ命スヘシ

第六十三條 法官ニ欠負アルキハ其州衙ヨリ
 州會ニ報告シ且ツ法官并ニ目代長封書ヲ以
 テ入札シ入札ノ家モ多キ者六人ノ名簿ヲ造
 リテ之ヲ附送スヘシ州會ニ於テハ右名簿ノ
 内ヨリ家モ適當ト察スル所ノ者一名ヲ選抜
 レ國王ヘ申出ツヘシ

郡衙ノ法士并ニ其目代官ノ内兼テヨリ人望

ヲ得且ツ精勤スル者アラハ右名簿ヲ造ルキ
 殊更之ニ注意スヘシ第四十九條以下

第六十四條 州衙ノ法官目代長訟師長及ヒ書
 記官ニ任スル者ハ政典ニ掲クル要件ヲ完備
 シ其外尚ホ次ノ件々ヲ具備スヘシ

一 國中大學校ニ於テ法科ノ試業ヲ經登第
 ノ後五年以上ヲ經タルヲ

二 年齡滿三十歳ノヲ

代書記官モ亦前同様登第シタル者ニ限ルハ

レ只年齢ハ滿二十五歳ヲ以テ足レリトス政典

第六條

第六十五條 州衙ニテ初度ノ裁判ヲ為スヘキ

件々左ノ如シ

- 一 本州治關係ノ詞訟ニテ物事ニ拍ラサル事

右詞訟總高四百元ニ過キサル者ハ裁判

ノ上、上告スルヲ得ス

二 州内郡衙ノ間ニ生シタル争訟并ニ郷衙

ノ間ニ生シタル争訟ニテ其管轄ノ郡衙

相異ナル者

三 郷衙ノ法士代法士并ニ郡衙ノ法士代法

士目代官書記官奉職中ノ曲事懲治ノ罪

ニ當ル者并ニ右曲事ヨリ第五十六條ノ

第二節ノ定ニ合スヘキ費用損害アリテ

其償ヲ責ムル者第七十條

第六十六條 州衙ニ關係スル民間諸般ノ詞訟ハ初度并ニ最終ノ裁判ヲ為スヘシ又本州管内ノ詞訟ノ上告スル者ハ最終ノ裁判ヲ為スヘシ但シ覆審ヲ乞フ者ハ此限ニ非ス

第六十七條 州衙ニ於テハ凡テ施體加辱ノ刑ニ當ルヘキ罪過并ニ本州管内ノ郡衙ヨリ其裁判申渡ヲ為スヘキ罪過ニテ別ニ大審院ノ

專務ト定マリタル事件ノ外ハ都テ初度并ニ最終ノ裁判ヲ為スヘシ但シ右ニ付テハ治罪法ノ條例ヲ參照スヘシ第九十二條

第六十八條 州衙ニ於テハ本州管内ノ郡衙ニテ初度ノ裁判ヲ為シ懲治ノ刑ニ當タレル者上告スル時ハ其最終ノ裁判ヲ為スヘシ第五十六條

第六十九條 州衙ニ於テハ本州管内ノ郡衙ニ

テ民法詞訟ニ付初度ノ裁判ヲ為シタル者上
告スル時ハ其裁判ヲ為スヘシ第三十
三條

第七十條 第六十五條第六十六條第六十九條

ニ示セル事件ハ州衙法官五員ニテ裁決スヘ

シ第二十
一條

第七十一條 第六十七條第六十八條ニ示セル

事件ハ法官六員ニ非サレハ審判ヲ為スヘカ

ラス尤モ其申渡ハ必ス多人數ノ説ニ從フヘ

シ

若シ衆説不決ノ時ハ被告者ノ勝利タルヘシ

第二十一
條
第一百
一條

第七十二條 州衙ニ於テハ目代長吟味ノ上其

申立ニ依テ管下郡衙ノ目代官并ニ管下郷衙

ノ法士及ヒ目代ノ事ヲ勤ムル者ヲ名シ寄セ

其職務上ノ懈怠或ハ過失ヲ糾問スルヲ得

ヘシ

右ノ節答ノ辭ニ應シ法官ノ至當ト察スル所ニ從ヒ訓誡ヲ為スヘシ或ハ其曲行ニ明瞭ノ

左訟アラハ目代長ニ命シ其處置ヲ為サシム

ヘシ第十四條
第一百八條

第七十三條 州衙へ冤罪ヲ訴フル者アル歟或

又惡ヲ懲ラスノ道ニ手落アルコトヲ確知スル

ハハ州衙ニテ目代長ニ命シ事情ヲ審察シ其

報知ヲ得タル上更ニ之ニ命シ至當ノ處置ヲ

為サシムヘシ

第七十四條ヨリ第八十二條ニ至ルマテノ規

則ハ千八百四十一年五月二十六日ノ律法ニ

テ之ヲ廢止ス

第五編 大審院ノ事

第八十三條 大審院ノ官員ハ法官長一員副長

一員法官十二乃至十四員目代長一員訟師長

二頁書記官一頁代書記二頁乃至三頁ヲ定則

トス 政典第百五十七條

第八十四條 大審院ノ法官及ヒミニステル并

ニ目代長訟師長ハ政典第百六十三條ヲ照ラ

シ生涯ヲ期シテ國王ヨリ之ヲ命スヘシ

第八十五條 大審院ノ法官ニ欠員アルキハ直

ニ其由ヲ國會ノ下院ニ報シ且ツ法官并ニ目

代長封書ヲ以テ入札シ入札ノ最多キ者六名

ノ名簿ヲ送り下院ニテ跡役選定ノ参考ニ備

フヘシ

州衙及ヒ郡衙ノ法官并ニ目代官中ニ兼テヨ

リ人望ヲ得且ツ精勤スル者アラハ右名簿ヲ

造ル時殊更之ニ注意スヘシ 政典第百五十八條

第八十六條 大審院ノ法官目代長訟師長及ヒ

書記官トナルニ須要ナル件々ハ政典ニ掲ク

ル所ノ外左ノ如シ

一 國中大學校ニテ法科ノ試業ヲ受ケ登第
シテ後十年以上ヲ經タル事

一 滿三十五歳以上ノ事

代書記トナル者法科登第ノ下ハ右ニ等シ但

ニ年齢ハ滿二十五歳ニテ足レリトス 政典第
六十七

条第九
ト一條

第八十七條 大審院ニテ初度ノ裁判ヲ為スヘ

キ件々左ノ如シ 第九十條第九
十三條政典第百六十一條

一 總テ國王若クハ王族ノ呼出サルヘキ詞

訟

二 政府ノ呼出サルヘキ詞訟但シ國稅ニ關

スル事件ハ此限ニ非ス

右ノ外事物ニ關ハリタル詞訟ハ郷衙郡衙ノ

法士之ヲ裁判スヘシ

第八十八條 裁判權柄ノ爭論モ亦大審院ニテ

初度ノ裁判ヲ為スヘシ

一 同州内ニ非サル郡衙郷衙ノ間ニ生シタル
ル争論

二 諸州衙ノ間ニ生シタル争論

三 州衙ト其管下ノ郡衙郷衙ノ間ニ生シタル
争論

四 州衙郡衙郷衙ト第一條ニ示セル諸管署
ノ間ニ生スル争論

第八十九條 本國軍艦又ハ戰牌ヲ領セル民船

ニテ捕拿セル貨物ノ一并ニ右捕拿セル者ノ
間ニ生セシ争論亦大審院ニテ初度ノ裁判ヲ
為スヘシ

第九十條 民法事件ニ付大審院ニテ初度ノ裁
判ヲ受クル者ハ詞訟法ノ條例ヲ照ラセ再審
ヲ乞フコトヲ得ヘシ第八十七條

第九十一條 民法事件ニ付大審院ニテ上告ヲ
取上ケ裁判ヲ為スヘキ件々左ノ如シ

一 州衙ニテ初度ノ裁判ヲ受ケタル者ノ上告
告第六十五條

二 屬地裁判所ノ裁判ヲ受ケタル者ノ上告
第九十二條 大審院ニ於テハ政典第百五十九條ヲ照ラシ左ノ件々ニ付初度并ニ最終ノ裁判ヲ為スヘシ

一 左ノ官員奉職中諸犯罪ノ事但シ入牢ノ罪ニ當ラザル者ハ此中ニ入ラス

國會議員

諸事務局長官ミニストル

特進議政官ライトラシスト

諸州長官

二 左ノ官員奉職中諸犯罪ノ事但シ入牢ノ罪ニ當ラザル者ハ此中ニ入ラス

國王并ニ王族ノ家令

勲爵ノ長官カニヤル

外國在留公使

屬國、總督及ヒ長官、

國會并ニ特進議政官、書記官

大審院、法官長法官目代長訟師長書記

官并ニ代書記官

會計吟味局、諸員及ヒ書記官

貨幣局、議事官長官及ヒ書記官

軍律裁判所、法官書記官并ニ其目代局

官員

州衙ノ法官長法官目代局官員書記官

右ニ載スル所ノ諸官員懲治ノ刑ニ中クルル

罪ヲ犯スキハ第五十六條ノ第二節ニ準シ大

審院ヨリ費用損害利益ヲ償ハシムヘキ申渡

ヲモ同時ニ為スヲ得ヘシ第六十七條第百

一條政典第百六

第九十三條 大審院ニ於テ次ノ件々亦初度并

ニ最終ノ裁判ヲ為スヘシ

一 海賊ヲ為シタル者

ニ 第八十九條ニ載セタル捕拿ノ一ニ付罪

ヲ犯セル者 第六十七條
第一百二條

第九十四條 大審院ノ裁判ヲ受ケタル者ハ覆

審ヲ乞フヲ得ス

第九十五條 州衙郡衙郷衙ノ處置ニ服セス或

ハ其最終ノ裁判ニ服セスシテ覆審ヲ乞フ者

第九十九條ノ定ニ準シ大審院ニテ之ヲ裁判

スヘシ 第一百四條政典
第一百六十二條

第九十六條 覆審ヲ乞フ者ハ次ニ掲クル條々

ヲ遵奉スルニ於テハ自身ニ申出ツルル又ハ

大審院ノ目代長ニ就テ之ヲ乞フル隨意タル

ヘシ 第九十八條
第一百三條

第九十七條 詞訟法及ヒ治罪法ノ中ニ覆審ヲ

乞フノ規則時限法式ヲ掲クヘシ

第九十八條 大審院ノ目代長ハ律法ヲ保護ス
 ヘキ要用アル片ハ詞訟人ニ許セル時限過キ
 テ後其趣ヲ申出テ覆審ヲ乞フヘシ但シ右覆
 審ノ裁判ハ前ニ詞訟人ノ得タル權利ヲ損ス
 ルニ至ラサルヘシ第九十九條

第九十九條 州衙郡衙郷衙ノ處置裁判并ニ禁
 足ヲ大審院ニテ取消スヘキ件々左ノ如シ
 一 取消スヘキ旨ヲ示シテ掲クル所ノ法式

ニ違背スル者第二十条以下第五十条第
 五十七條第七十條以下
 二 律法ニ違背シ又ハ之ヲ誤用スル者
 三 權限ヲ踰ユル者第三十八條以下第五十
 三條以下第六十五條以
 下政典第百
 五十六條
 右ノ如ク定規アリト雖民法ノ事ニ付郷衙ヨ
 リ申渡シタル案終ノ裁判ハ其權ナクシテ為
 セル歟他權ヲ犯ス歟裁判ノ根據ヲ載セサル
 歟又ハ申渡ノ節戸ヲ閉チタル歟ニ非サレハ

之ヲ取消スルヲ得ス但シ大審院ノ目代長律
 法ヲ保護セシカ為ニ右ノ裁判ニ服セスシテ
 覆審ヲ乞フヲ妨ケナシ第九十五條第九十八
 條政典第百五十六條
 第百六
 十二條

第百條 大審院ニ於テハ初度最終ニ拘ハラヌ
 聽訟斷刑覆審トモ常例法官七員ニテ判決ス
 ヘシ但シ律法ニテ別例ヲ定ムル者ハ此例ニ
 非ス

第百一條 第九十二條ニ記シタル事件ニ於テ
 ハ法官十員ニテ之ヲ判スヘシ

兩説人負匹敵スル時ハ被告ノ勝ト判スヘシ
 第百二十一條
 第百二十二條

第百二條・第九十三條ニ記セシ事件ニ付テハ
 法官六員ニテ之ヲ判スヘシ
 兩説人負匹敵スルキハ被告ノ勝ト判スヘシ
 第百七十一條
 第百八十一條

第百三條 裁判所ノ裁判ニ服セサル者ト雖其
 衙門ノ法官若クハ上告セル所ノ法官其不服
 ノ筋ヲ糾シ再案ノ手續キ終ラサル間ハ詞訟
 人覆審ヲ乞フヲ得ス

第百四條 大審院ノ法官ハ覆審ノ事件ニ付次
 ノ兩條ニ注意スヘシ

第百五條 律法ニ違背スル歟律法ヲ誤用スル
 歟又ハ權限ヲ越ユルニ付其裁判若クハ禁足

ヲ取消サンコトヲ乞フ者アル中ハ大審院ノ法
 官其申渡ノ當否ヲ論セス更ニ根元ノ事實ノ
 ミヲ糾シテ裁判ヲ為スヘシ

第百六條 取消スヘキ旨ヲ示シテ掲クル所ノ
 法式ニ違背スルニ依テ其申渡ヲ取消スルニ
 ハ大審院ノ法官ヨリ指圖書ヲ與ヘ取消ニテ
 ルヘキ申渡書ノ窠モ古キ者ヲ先トシ左ノ順
 序ヲ追テ處置ヲ為サシムヘシ

一 取消スヘキ申渡書郷衙ヨリ出ツル者ナ
 ルキハ其管轄ノ郡衙ニ之ヲ送ルヘシ
 二 取消スヘキ申渡書郡衙ヨリ出ツル者ナ
 ルキハ其管轄ノ州衙ニ之ヲ送ルヘシ
 三 右申渡書州衙ヨリ出ツル者ナルキハ之
 ヲ隣境ノ州衙ニ送ルヘシ
 第百七條 大審院ノ法官ヨリ國中ノ州衙郡衙
 郷衙ニ命シ其緊要ト察スル事件ヲ報知若ク

ハ建議セシムルヲ得ヘシ第二十五條
 第百八條 大審院法官ハ目代長ニ問合ノ上又
 目代長ノ申立ノ上ニ州衙ノ目代局官員ヲ呼
 出シ其非違ヲ糾問スルヲ得ヘシ
 右糾問ノ上答ノ辭ニ應シ相當ノ訓誡ヲ加フ
 ヘシ若シ曲事ノ証蹟分明ナラハ目代長ニ附
 レ法ノ如ク處置ヲ為サシムヘシ第十四條第七十二條政
 典第百六十二條

第百九條 訴人ノ申立歟又ハ別段ノ筋ニテ大
審院ノ權内ニ罪人追捕ノ法不條理ニ渉ル者
アルコトヲ知ルルハ大審院法官ヨリ目代長ニ
命シ其事實ヲ檢査シテ報知セシメ其事果シ
テ實蹟アラハ之カ為ニ須要ナル處置ヲ為ス
ヘキ旨ヲ更ニ之ニ命スヘシ第百六
十二條
第百十條 大審院ノ官負ノ給料ハ此律法ノ後
ニ附スル表ノ通りタルヘシ

追則

第百十一條 從來在職ノ司法職官負ハ此律法
ニ掲クル所ノ要件ヲ完備セスト雖同科ノ職
務ニ任スルコト妨ケナシ
但シ從來在職ノ代書記官ハ法學ノ試業ヲ受
ケ登第シタル者ニ非サレハ書記官ニ任スル
コトヲ得ス
親族縁族ノ等級ニ付是迄容捨セシムルハ尚ホ

是迄ノ通りタルヘシ第十條第三十五條第四十八條第六十四條
 第百十二條 司法官ノ各衙門ノ場所一定ノ後
 ハ律法ニ非サレハ之ヲ變スルヲ得ス第六十條第六十條

終

第三十六條附錄 郷衙法士及ヒ書記官給料表

北荷蘭州第一等郡		法士	千二百元
第一等 衙管下ノ第一第二	第三第四郷衙	書記官	六百元
第二等	別ニ律法アリ爰ニ畧ス	法士	九百元
		書記官	四百五十元
第三等	同上	法士	八百元
		書記官	四百元

州名	郡衙順序	郡衙所在地名	增補管内郷衙員數	增補ト林スルハ譯者補入ニ係ル
	第一	ヘルトウヘンホス	七所	
第四等	同上		法士	七百元
			書記官	三百五十元
第五等	同上		法士	六百元
			書記官	三百元
第四十六條附録				

北荷蘭	第一	阿姆斯特ダム	七所
	第二	アルクマール	三所
給徳蘭	第一	アルンヘム	七所
	第二	子ノメヘン	四所
	第三	レユトベン	七所
	第四	ゲール	四所
北巴班	第二	エイントホーヘン	四所
	第三	ブレク	六所

	西蘭			烏特歴		非里薩		
	第一	第二	第三	第一	第二	第一	第二	第三
	シッテルビュルフ	ヘーン	デーリツキゼー	ウトレヤト	アメルスホールト	レーウワルデン	ヘーレンヘーン	ス子ート
	四所	五所	三所	四所	三所	七所	三所	四所

	南荷蘭						
	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第三
	ハーヘ	レーデン	ロツテルダム	ドルドンフト	ゴリンセム	グリーンル	ハーレン
	四所	五所	七所	四所	三所	二所	三所

靈堡	徳倫	哥羅凝俺	第一	第一	ズウォーレ	四所
				第二	デヘンテル	四所
				第三	アルメロ	五所
第一	第二	第三	第一	ブローニンヘン	三所	
			第二	井ンスコーテン	二所	
			第三	アツヒシカタム	二所	
第一	第二	第三	第一	アツセン	三所	
			第二	マーストリクト	五所	
			第三			

和蘭海峽船務

支那

阿姆斯特ダム	日代一頁	長官一頁	三千元
		副長官二頁 各	二千五百元
		法官十二頁 各	二千元
第四十六條附録職員并其給料表		目代一頁	三千元
増補合計十州	増補三十四所	百四十八所	五所
第二	ルールモント		

和蘭海峽船務

支那

		ハ一へ	
代目代三頁各	書記一頁	代書記三頁各	長官一頁
二千円	千六百元	千円	三千円
			法官五頁各
			目代一頁
			代目代
			書記一頁
			千五百元

		ロツテルダム	
代書記一頁	長官一頁	副長官一頁	法官七頁各
千元	三千円	二千五百元	二千円
			目代一頁
			代目代二頁各
			書記一頁
			代書記二頁各
			千五百元
			千元

才... 年... 治... 期...

六部

	長官一頁	二千三百元
第一等	目代一頁	二千三百元
郡衙	代目代一頁	千六百元
	書記一頁	千二百元
	代書記一頁	八百元
	長官一頁	二千元
	法士三頁各	千五百元

	目代一頁	二千元
第二等	代目代一頁	千三百元
郡衙	書記一頁	千二百元
	代書記一頁	八百元
	長官一頁	千八百元
	法士三頁各	千三百元
第三等	目代一頁	千八百元
郡衙	代目代一頁	千三百元

才... 年... 治... 期...

六部

書記一頁	千元
代書記一頁	六百五十元

第六十條附錄州衙職員并給料表

長官一頁	四千元
副長官一頁	三千五百元
南荷蘭 法官九頁各	三千元
北荷蘭 日代長一頁	四千元

訟師長二頁各	三千元
書記一頁	二千四百元
代書記二頁各	千五百元

北巴班 長官一頁	三千三百元
給德蘭 副長官一頁	二千八百元
西蘭 法官七頁各	二千二百元
烏特歷 日代長一頁	三千三百元
非里薩 訟師長一頁	二千二百元

窩威立塞 哥羅凝倦	書記一頁 代書記一或二頁	千八百元 千元
靈堡	長官一頁 副長官一頁 法官七頁各 目代長一頁 訟師長一頁 書記一頁	三千三百元 二千八百元 二千三百元 三千三百元 二千二百元 千八百元

德倫	代書記一頁	千元
	長官一頁 副長官一頁 法官七頁各 目代長一頁 訟師長一頁 書記一頁 代書記一或二頁各	二千五百元 二千二百元 二千元 二千五百元 二千元 千六百元 八百元

第一百條附錄大審院職員及其給料表

長官一員	八千元
副長官一員	五千元
法官十二或十四員各	四千五百元
目代長一員	八千元
訟師長二員各	四千五百元
書記一員	三千五百元
代書記二或三員各	二千元

和蘭司法職制法終